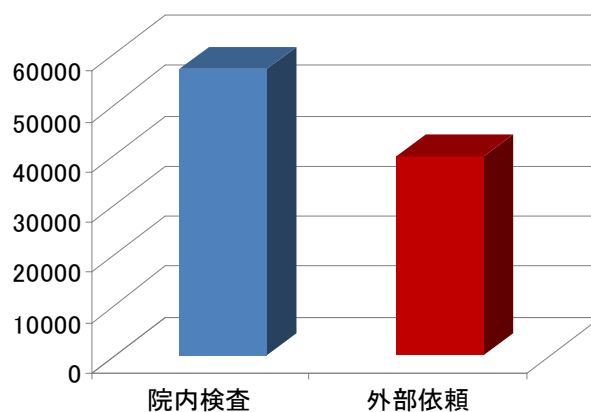
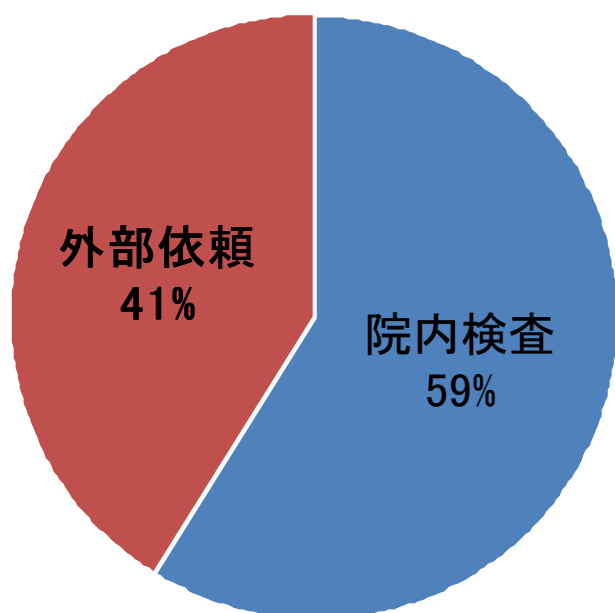


紹介検査率(MR・CT)



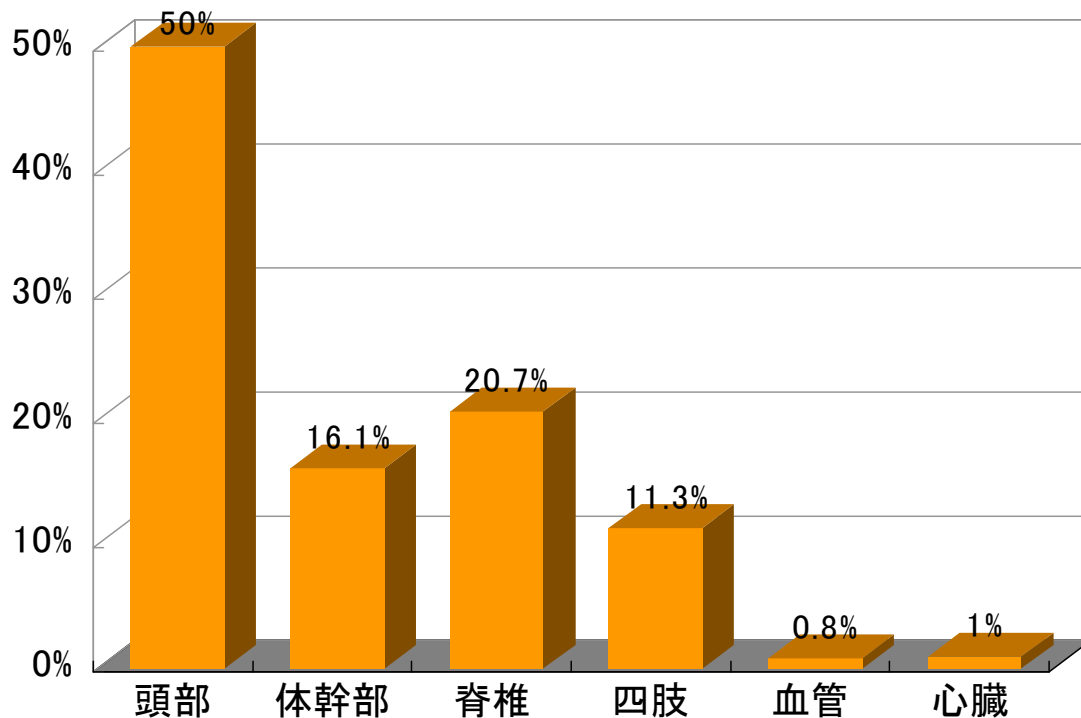
(2003-2013 統計)

平成8年にオープンして以来、画像検査には特に力を入れ、院内の先生方と近隣の先生方のご依頼による検査を行ってきました。現在までの総検査件数は10万件以上にのぼりますが、そのうち約4割は紹介による先生方のご依頼です。

現在は、CT1台(GE社製64列 Light Speed VCT)、1.5T-MRI 2台(GE社製SignaHDxt CV/NV・Philips社製Achieva-NOVA)体制で、緊急検査にも極力対応できるよう行っております。

近年、検査機器は急速な進化を遂げており使いやすくなっている反面、操作に高度な知識を必要とする部分もあります。当院では技術の進歩に遅れをとらないよう、高品質な医療を心がけながら、今後とも先生方のご期待にお答えできるよう、努力してまいりたいと思います。
今後ともご指導ご鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。

MRI検査数(部位別)

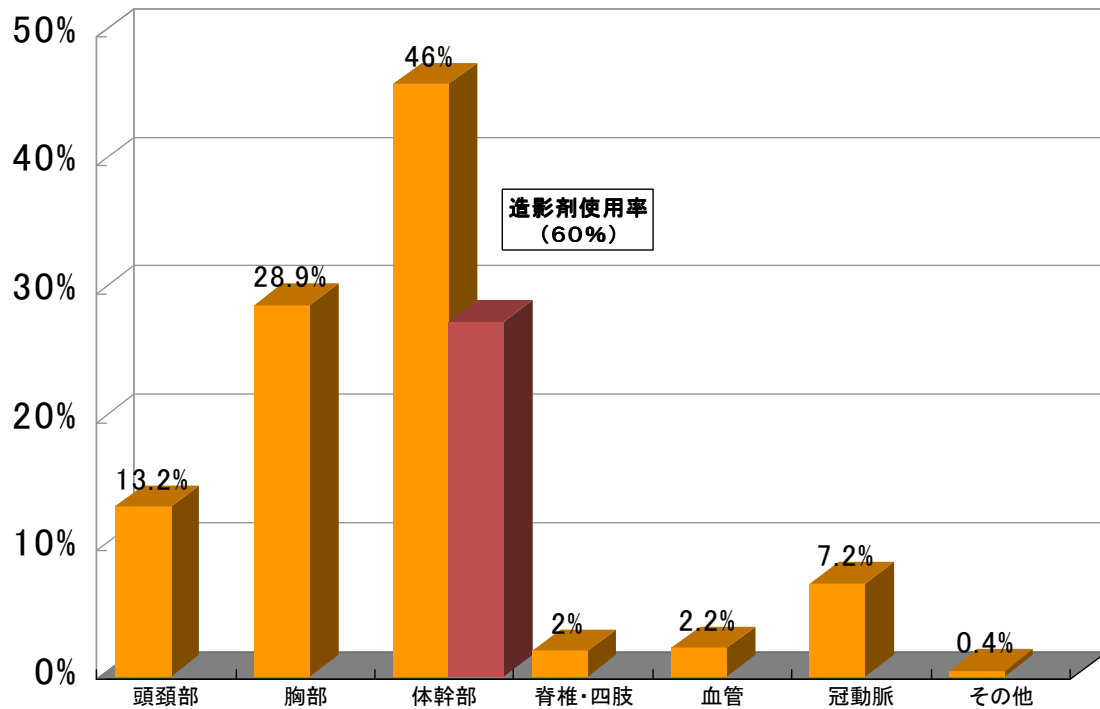


部位別にみた検査数は頭部が最も多く約半数を占めます。次いで脊椎や四肢、整形領域、そして腹部・骨盤部などの体幹部領域となっています。一般にMR検査数を部位別に比較すると頭部及び脊椎に偏る傾向にありますが、当院では比較的全般に検査を行っているのが特徴です。

当院ではGEとPHIの2台の1.5T-MRIがありますので、それぞれの装置の特性や受信コイルの性能を生かした装置選択ができることが利点です。例えば、心臓領域はPhilipsの得意とするところであり32chコイルを使用した心臓検査はやはり画質が鮮明です。頭頸部などの血管系はGEが優れており、検査部位や検査内容に応じてその都度、最善の選択を行って検査を行っています。

近年、MRIは急速な進歩を遂げてきましたが、未だ発展途上であり今後もますます変化していく事と思います。そのような時代の変化に遅れをとることなく、日々努力していきたいと考えております。

CT検査数(部位別)



部位別にみたCT検査数は体幹部が最も多く、次いで胸部、頭頸部心臓の検査となっています。胸部～骨盤部を数秒で撮影できるCTは体幹部の検査においてその力を発揮し、検査数も突出しています。当院CT検査の体幹部における造影剤使用率は60%あまりを占め、いわゆるスクリーニング的なものではなく二次検査や術前精査などの依頼が多いのも特徴です。

全体の割合としてはまだまだ少数ですが、冠動脈検査には特に力を入れております。WSの解析ソフトの充実により、近年は検査数もますます増加していく傾向にあります。

『ASiR』という画像構成技術のソフトウェアにより、従来の画質を維持したままで被曝線量の低減も可能となりました。今後とも、更なる検査の品質の向上に努めていきたいと考えております。